



Fig. 1 眼球における結像の図(デカルト, 1637年)



Fig. 4 猫の顔が描かれているカメラ(Holga K202)



Fig. 2 「ハローキティ®」顔の形のカメラと取扱説明書



Fig. 5 顔の「ホクロ」を押した状態



Fig. 3 撮影例



Fig. 6 2つの目が撮影レンズになっているカメラ(Holga 135TIM)

口絵解説

「画像からくり」
第26回 フェイス形カメラ

26. Face-Shape Cameras

桑山哲郎

ヒトの目はカメラにたとえられる。他人と向き合い目を合わすことと、相手の顔を正面から撮影するが同列に考えられるなら、カメラは顔の形をしているのが最も良いだろう……というのはかなり飛躍した理屈だが、顔の形をしたカメラは意外に多数ある。今回は、顔の形をしたカメラの一部を紹介する。

カメラの紹介の前に、Fig. 1を用い眼球における結像について説明する。物体の各点から発散する光は、瞳を通して網膜上に集まり結像が行われる。これはカメラと全く相似である。ところが現在、カメラについてある程度の知識を持っている者にとっては、物体の結像について到底容認できないような不適切な図が、眼球、カメラの両方について流通しているので、模範例として1637年のデカルトの「屈折光学」の図を掲載した。

さて、Fig. 2をご覧ください。向かって左は取扱説明書、右はカメラの本体でどちらも「ハローキティ®」の顔の形をしている。2007年、サンリオ(株)の直営ショップで、このデジタルカメラは存在感を発揮していた。カメラ全体は顔の形をしているが、撮影レンズは右上のリボンの結び目に配置されている。また撮影補助光の白色LEDもすぐ近くに配置されている。このカメラには「さすがフェイス形カメラ」という機能がある。シャッターボタンを押して撮影すると、左右の頬がピンクに染まるのである。一度このカメラを向けられた相手は、次には満面の笑顔でこのカメラに向かってももらえるという趣向である。なおこのカメラには地色がピンクに変更された後継機(これも持っている)もあるが、頬がピンクに染まる印象は弱くなってしまったように思う。なおカメラ名が「ハローキティフェイス形デジタルカメラ」なので、今回のコラムのタイトルも「フェイス形カメラ」とした。

Fig. 3は、このカメラを用いた撮影例である。少し暗い場所でないとう頬が光る様子が記録できないので、大きな鏡面が配置された商業ビルの通路で撮影した。直接目で見た印象はうまく伝えることができないが、たしかにLEDが光っていることはご理解いただけることと思う。

シャッターボタンを押すといろいろ話をする「おもちゃカ

メラ」は珍しくないが、実用的な写真が撮影できるカメラは少数である。Fig. 4の「Holga K202」という名前の35ミリフィルムカメラでは、ネコの顔が描かれた前面で片方の目が撮影レンズになっている。他方の目は閉じ、ウィンクをした外観になっている。店頭「ジャンクコーナー」で見つけたカメラであるが、電池の残量が十分あり、顔の右下の「ホクロ」を押したとたんに大音響と光を発したので、早速買うこととした。左上のスピーカーからは刺激的な音が出、5個並んだLEDが次々に点灯する。なおHolga社は中国のカメラメーカーで、6×6判のフィルムカメラが製品としては有名であるが、比較的安価でユニークなカメラを多数生産している。

Fig. 5は、LEDが発光している状態である。点滅の様子は動画でないといえることができないのだが、幸い動画共有サイトで検索すると、アップロードされた動画を見ることができる。なお今回のカメラは地色が黄色であるが、白色の色違いの機種があり、こちらのカメラが「ニャア」と声を出す様子も動画共有サイトで見ることができる。シャッター速度、絞り、ピント調節も固定ながら、ある程度の画質での撮影ができるカメラで、撮影結果もネット上で見ることができる。

Fig. 6は、同じHolga社の別なフェイス形カメラである。35ミリフルサイズの画面を左右分割し、同時あるいは独立に撮影が可能な機能を持っている。カメラ名は「Holga 135 TIM」(Twin Image Maker)で、中国製のカラーネガフィルムが同梱されていたので一緒に撮影した。撮影レンズの間隔が18mmなので、左右同時に撮影したのではほとんどステレオ写真の効果が得られず、ほぼ同じ写真が撮影されることとなる。まるで「まぶた」のような開閉式レンズカバーが左右の撮影レンズに付けられていて、単独の撮影も、多重露光も簡単にできる仕掛けになっている。

以上、フェイス形カメラを3機種取り上げた。大袈裟に、「カメラとは何か?」「カメラは他の人とコミュニケーションをとりための道具である」といった議論を繰り広げるなら、フェイス形で声を発するカメラがもっと注目されても良いだろうと思うのだが、世の中はなかなかそのようには進展していない。なおこの「画像からくり」の連載第2回¹⁾で取り上げた、3本の撮影レンズを持つカメラの1台も、ロボットの顔を意図したデザインになっているので、ご参照いただきたい。

参考文献

- 1) 桑山哲郎、「画像からくり 第2回 3本,4本,9本の撮影レンズを持ったカメラ」, 日本写真学会誌, 73, 133 (2010).